

# 県民幸福度向上事業について

## 1. 事業概要

- 本県では、第4次山形県総合発展計画の基本目標に「人と自然がいきいきと調和し、真の豊かさと幸せを実感できる山形」を掲げ、各種施策を推進。
- こうした中、民間企業の幸福度に関する調査では、客観的な指標に基づく幸福度は高いが、個人の主観に基づく幸福実感度は相対的に低い状況。
- このため、今年度から、県民の幸福実感度の向上に向け、本県ならではの地域資源、暮らし方などの価値を見つめ直すきっかけづくりや機運の醸成を図るための取組みを展開。

### 【主な事業】

《山形の良さや暮らしの価値などの周知・啓発》やまがたLifeポジティブキャラバン、「やまがた×幸せ」シンポジウム、知恵袋委員会、やまがた幸せ探検隊  
 《山形での幸せについて考えていただくきっかけづくり》山形の未来創造「高校生アイデアコンテスト」、やまがた幸せエピソードコンテスト  
 《県民の意識調査》高校生アンケート調査、県政アンケート調査

【客観的評価】	【主観的評価】
全47都道府県幸福度ランキング(2022) (一財)日本総合研究所 山形県：7位 ※健康、文化、仕事、生活、教育など 80の分野に関する統計から評価	地域版SDGs調査(2023) (株)ブランド総合研究所 山形県：42位 ※問「あなたは幸せですか」への5段階 評価の回答を加重平均して順位付け

## 2. 実施状況

### (1) やまがたLifeポジティブキャラバン

本県で活躍する方を中学校に派遣し、山形を舞台に活躍する生き方、考え方等の講話を通してロールモデルを示し、本県での暮らしの価値を見つめ直す機運を醸成

実施校	講師
8/25 神町中学校（東根市）	ヤマガタデザイン(株)代表取締役 山中 大介 氏
10/23 高畠中学校（高畠町）	(株)小嶋総本店 代表取締役社長 小嶋 健市郎 氏
11/5 明倫学園中学校（新庄市）	初代山形県住みます芸人、
12/14 豊浦中学校（鶴岡市）	料理家 三浦 友加 氏



#### 生徒の声（主なもの）

- 地元には何もないと思っていたが、何があるか知らないだけで、知ることが大事だと分かったし、挑戦することが大事だと分かりました。
- 山形の好きなところは自然があふれていて、人が優しいところです。話を聞き、自分の人生をどう生きるか考えるきっかけになりました。



### (3) 山形の未来創造「高校生アイデアコンテスト」、「やまがた×幸せ」シンポジウム

12/16(土)、山形国際交流プラザにて「やまがた幸せサミット」を開催し、山形の良さや誇り、山形の暮らしの中にある「幸せ」などについて考える機会を創出

#### 山形の未来創造「高校生アイデアコンテスト」

県内の高校生から山形の未来をより良いものとするためのアイデアを募集し、1次審査を通過した7校10チームによるプレゼンテーション審査を実施し表彰

#### 「やまがた×幸せ」シンポジウム

本県ゆかりの著名人等によるトークセッションを実施

### (2) やまがた幸せエピソードコンテスト

「山形だからこそこの幸せ」をテーマに、エピソードと写真を募集し審査  
 《応募》エピソード部門：35点、写真部門：39点



#### エピソード部門 最優秀賞「お客様はラーメン」

私が子供の頃、午前中のお客様が昼近くまでいらっしやると、必ず出前でラーメンを取ってご馳走したものです。「もうこんな時間だ！お昼だから、帰るよ。」と、お客様が帰ろうとすると、母は「あら！今、ラーメン注文したから、食べてってける！」と言って引き止めたものでした。母は私の分もラーメンを注文してくれるので、子供の頃の私は、午前中の来客があると「やったぁ！ラーメンだぁ！」と嬉しくて、お客様の顔がラーメンに見えるようでした。

お客様も、お寿司なら恐縮して遠慮してしまうかもしれませんが、ラーメンなら断れない。スグ食べないと伸びてしまうので、注文されたら、遠慮せずご馳走になれるラーメン！

山形県民のさり気ない気配りと、おもてなしの気持ち。ご馳走と言っても、飾り気のないシンプルな醤油ラーメン。山形市のラーメン支出額が1位、2位なのも、そのDNAからくるものなのかもしれません。出前のラーメンは、山形のやさしさが詰まったご馳走です。

#### 写真部門 最優秀賞「やまがたの自然の魅力!満喫プロジェクト」

山形の「山」の魅力は世界一！  
 普段は、ガスがかかっている、信じて待てば、必ず、素敵な景色を私たちに見せてくれる。  
 子どもたちに、そんな魅力を伝えたくて、毎年、月山登山にチャレンジしています！



#### 最優秀賞「置賜農業高等学校」

橋本綾寧さん、佐藤妃那さん、前柳あいかさん  
 (テーマ)  
 「おせっかいなお花屋さんプロジェクト」



## (4) 各種アンケート結果

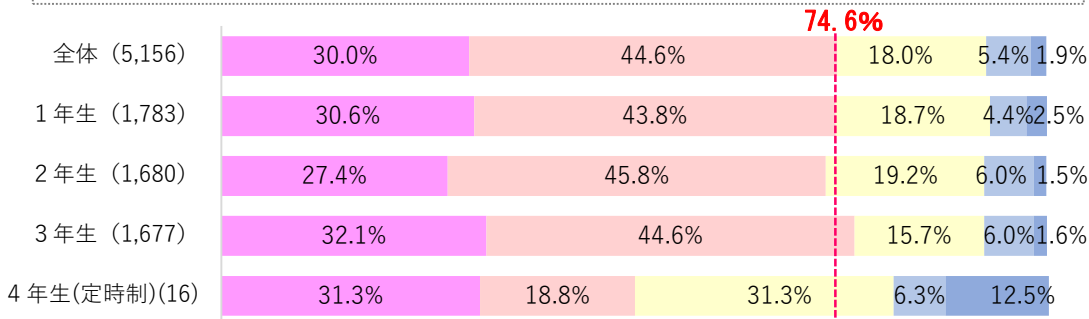
### 高校生アンケート

【調査対象】 県内在住の全日制高校及び定時制高校の高校生 約26,600人  
 【調査方法】 インターネットによるアンケート調査  
 【調査期間】 令和5年10月  
 【結果】 回収数 5,156件  
 【属性】 ・男性(41.2%)、女性(55.4%)、無回答(3.4%)  
 ・1年生(34.6%)、2年生(32.6%)、3年生(32.5%)、  
 4年生(定時制)(0.3%)

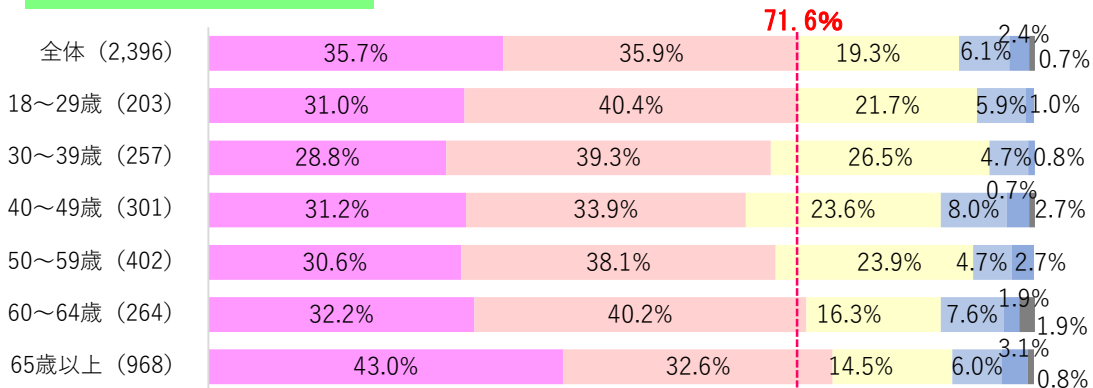
#### 現在、どの程度幸福を感じているか

##### ◎高校生アンケート結果

※凡例： ■ とても感じる ■ まあまあ感じる ■ どちらともいえない ■ あまり感じない ■ 全く感じない  
■ 無回答



##### ◎県政アンケート結果



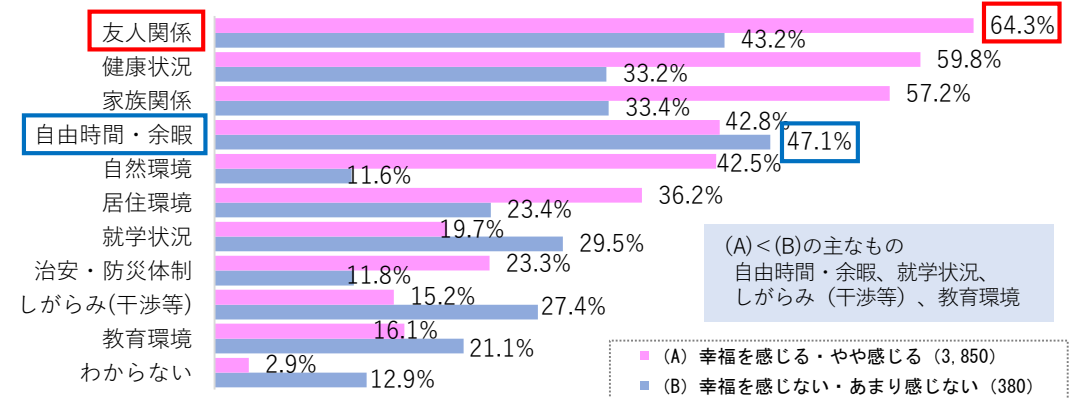
- ・ 幸福を感じている人(とても感じる・まあまあ感じる)の割合は、ともに7割超。
- ・ 県政アンケートで幸福を感じている人(同上)の割合が最も高いのは「65歳以上」、最も低いのは「40～49歳」。

### 県政アンケート

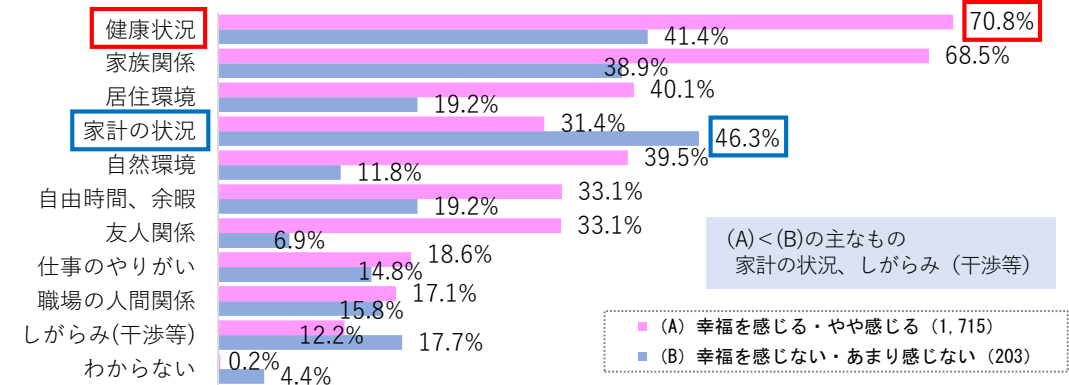
【調査対象】 県内在住の満18歳以上の者 2,500人  
 【調査方法】 郵送によるアンケート調査(回答は郵送又はインターネット)  
 【調査期間】 令和5年8月中旬～9月上旬  
 【結果】 回収数 1,297件  
 【属性】 ・男性(48.3%)、女性(51.1%)、無回答(0.6%)  
 ・18-29歳(8.5%)、30-39歳(10.7%)、40-49歳(12.6%)、  
 50-59歳(16.8%)、60-64歳(11.0%)、65歳以上(40.4%)

#### 幸福かどうか判断する際に重視したもの(幸福実感度別)

##### ◎高校生アンケート結果



##### ◎県政アンケート結果

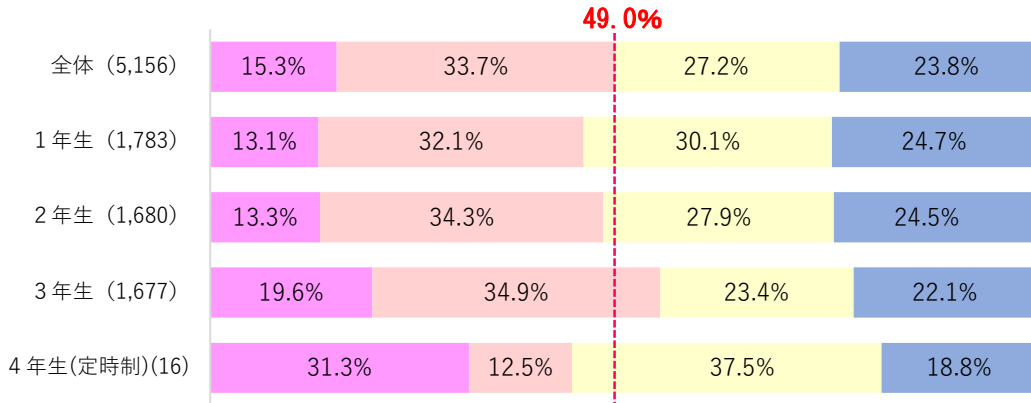


- ・ (A) 幸福を感じる・やや感じる人の回答割合が最も高い項目は、高校生アンケートでは「友人関係」、県政アンケートでは「健康状況」。双方とも「家族関係」も上位。
- ・ (B) 幸福を感じない・あまり感じない人の回答割合が最も高い項目は、高校生アンケートでは「自由時間・余暇」で、県政アンケートでは「家計の状況」。

## 将来も、山形県に住み続けたいと思うか

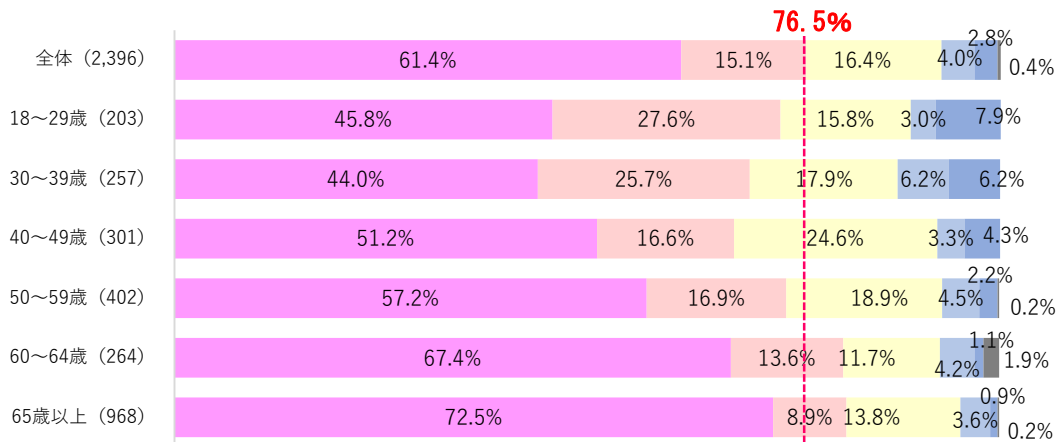
### ◎高校生アンケート結果

※凡例： ■ 住み続けたいと思う ■ 一度県外に出て、将来は山形県に戻って住みたいと思う  
■ わからない ■ 住み続けたいと思わない



### ◎県政アンケート結果

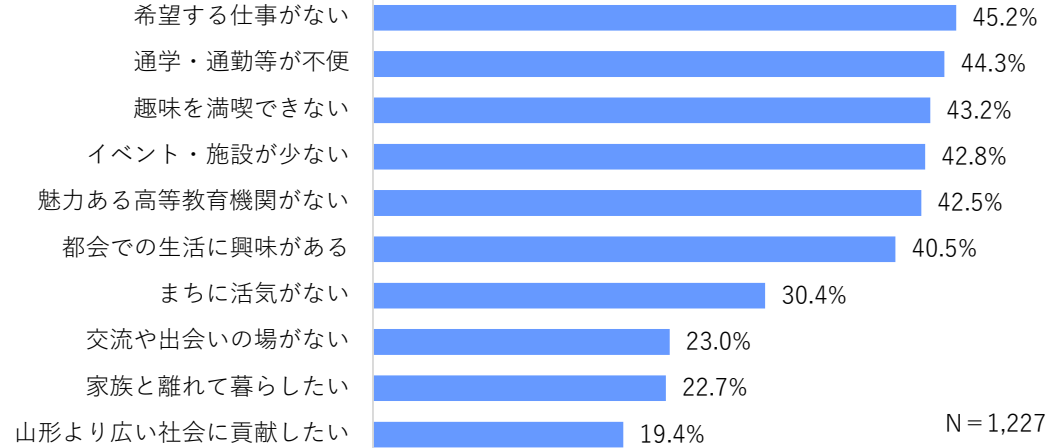
※凡例： ■ 住み続けたいと思う ■ やや住み続けたいと思う ■ どちらともいえない  
■ あまり住み続けたいと思わない ■ 住み続けたいと思わない ■ 無回答



- 高校生アンケートでは、「住み続けたい」「将来は山形県に戻って住みたい」の割合は49%にとどまる。一方で、「住み続けたい」の割合は、学年が上がるほど増加（サンプルの少ない4年生（定時制）を除く）。
- 県政アンケートでは、「住み続けたいと思う」「やや住み続けたいと思う」の割合は76.5%。年代が上がるほど「住み続けたいと思う」の割合が高くなる傾向。

## 山形県に住み続けたいと思わない理由(上位項目)(対象:「住み続けたいと思わない」回答者)

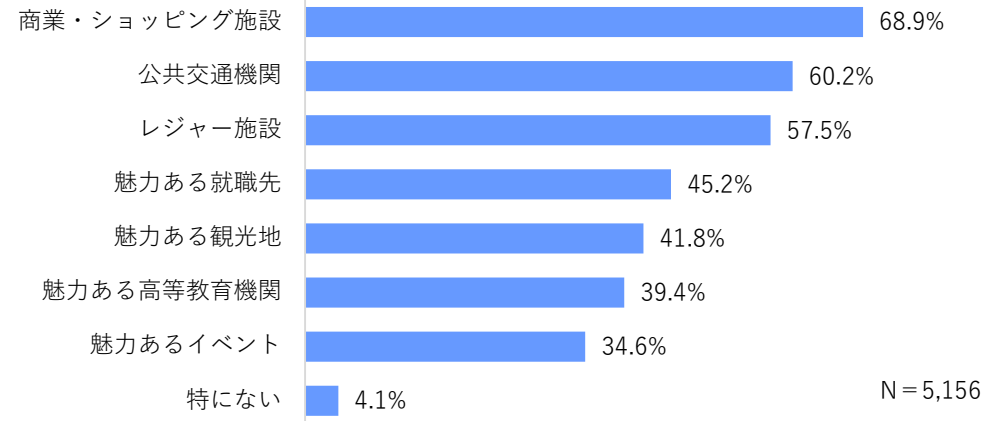
### ◎高校生アンケート結果



- 「希望する仕事がない」「魅力ある高等教育機関がない」といった進路に関するもの、「通学・通勤等が不便」「趣味を満喫できない」「イベント・施設が少ない」といった生活に関係した項目の回答割合が高い。

## 山形県に足りないと感じるところ

### ◎高校生アンケート結果



- 「商業・ショッピング施設」「公共交通機関」「レジャー施設」といった生活・遊びに関する項目の回答割合が高い。